

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成30年2月13日

【四半期会計期間】 第68期第3四半期(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)

【会社名】 中国工業株式会社

【英訳名】 CHUGOKUKOGYO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 野村 實也

【本店の所在の場所】 広島市中区小町2番26号
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行って
おりません。)

【電話番号】

【事務連絡者氏名】

【最寄りの連絡場所】 広島県呉市広名田一丁目3番1号

【電話番号】 0823-72-1322

【事務連絡者氏名】 常務執行役員 経営管理部長 小田 和守

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第67期 第3四半期 連結累計期間 | 第68期 第3四半期 連結累計期間 | 第67期 |
|------------------------------|------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | | 自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日 | 自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日 | 自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日 |
| 売上高 | (千円) | 9,256,782 | 9,064,092 | 12,604,937 |
| 経常利益 | (千円) | 163,810 | 139,284 | 322,522 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 | (千円) | 89,991 | 31,505 | 296,242 |
| 四半期包括利益又は包括利益 | (千円) | 327,536 | 239,676 | 505,740 |
| 純資産額 | (千円) | 4,266,456 | 4,701,034 | 4,497,571 |
| 総資産額 | (千円) | 10,840,291 | 12,061,609 | 11,006,201 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 金額 | (円) | 26.57 | 9.30 | 87.46 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 | (円) | | | |
| 自己資本比率 | (%) | 36.56 | 35.90 | 37.72 |

| 回次 | | 第67期 第3四半期 連結会計期間 | 第68期 第3四半期 連結会計期間 |
|---------------|-----|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間 | | 自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日 | 自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 | (円) | 51.86 | 28.58 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益が引き続き改善傾向にあり、個人消費も持ち直しの兆しがあるものの、原材料価格の高騰や自然災害・地政学リスクの高まり等、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

一方、当社グループを取り巻くガス事業分野のエネルギー関連においては、電力や都市ガスの小売り自由化やエネルギー供給源の多様化の環境下において、競争激化が続いております。

このような経済情勢のなか、当社グループは売上の拡大に努めましたが、鉄構機器事業及び施設機器事業は増収となりましたものの、高圧機器事業及び運送事業が減収となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は90億64百万円（前年同期比1億92百万円の減収）となりました。利益面においては、営業利益は1億15百万円（同29百万円の減益）に、経常利益は1億39百万円（同24百万円の減益）に、親会社株主に帰属する四半期純利益は31百万円（同58百万円の減益）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

高圧機器事業

LPガス容器の販売数量が若干減少したことに加え、LPガスプラント工事の受注が減少したことにより、事業全体の売上高は54億22百万円となり、前年同期を3億74百万円(6.5%)下回りました。セグメント利益(営業利益)は、前年同期を1億27百万円下回る2億59百万円となりました。

鉄構機器事業

鉄鋼用インナーカバーの受注増加により、事業全体の売上高は3億78百万円となり、前年同期を22百万円(6.3%)上回りました。また、セグメント利益(営業利益)は、コスト削減等により前年同期を21百万円上回る62百万円となりました。

施設機器事業

畜産分野の主力製品である飼料タンクの販売数量が増加したことにより、事業全体の売上高は12億68百万円となり、前年同期を2億4百万円(19.2%)上回りました。セグメント利益(営業利益)は、売上高の増加により、前年同期を44百万円上回る72百万円となりました。

運送事業

貨物輸送量が減少したことにより、事業全体の売上高は19億94百万円となり、前年同期を45百万円(2.2%)下回りました。セグメント利益(営業利益)は、コスト削減等により、前年同期を16百万円上回る49百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産は、現金及び預金が1億98百万円、仕掛品が3億45百万円、投資有価証券が時価の上昇により2億77百万円それぞれ増加した結果、資産合計は前連結会計年度末と比較して10億55百万円(9.6%)増加し、120億61百万円となりました。

負債は、短期借入金が3億16百万円、前受金が3億94百万円それぞれ増加した結果、負債合計は前連結会計年度末と比較して8億51百万円(13.1%)増加し、73億60百万円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金が1億81百万円増加した結果、純資産合計は前連結会計年度末と比較して2億3百万円(4.5%)増加し、47億1百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は83百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 8,000,000 |
| 計 | 8,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年12月31日) | 提出日現在 発行数(株) (平成30年2月13日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|---|---------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 3,420,000 | 3,420,000 | 東京証券取引所 市場第一部 | 単元株式数は 100株であります。 |
| 計 | 3,420,000 | 3,420,000 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|-------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 平成29年12月31日 | | 3,420,000 | | 1,710,000 | | 329,299 |

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------|----------|----------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 4,500 | | |
| | (相互保有株式) 普通株式 59,000 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 3,346,000 | 33,460 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 10,500 | | 1単元未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 3,420,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 33,460 | |

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が100株(議決権1個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、中鋼運輸株式会社所有の相互保有株式84株及び当社所有の自己株式67株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|----------------------|----------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 中国工業株式会社 | 広島市中区小町2-26 | 4,500 | | 4,500 | 0.13 |
| (相互保有株式) 中鋼運輸株式会社 | 広島県呉市広町田2-7-41 | 59,000 | | 59,000 | 1.72 |
| 計 | | 63,500 | | 63,500 | 1.85 |

(注) 株主名簿上は中鋼運輸株式会社の名義となっておりますが、実質的に同社が所有していない株式が1,100株あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含めております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日) |
|-----------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 758,110 | 956,242 |
| 受取手形及び売掛金 | 3,404,058 | ² 3,380,060 |
| 電子記録債権 | 251,746 | 287,549 |
| 製品 | 217,729 | 273,390 |
| 仕掛品 | 525,186 | 871,026 |
| 原材料及び貯蔵品 | 211,504 | 338,458 |
| 繰延税金資産 | 101,880 | 51,901 |
| その他 | 115,714 | 178,378 |
| 貸倒引当金 | 1,582 | 1,618 |
| 流動資産合計 | 5,584,347 | 6,335,389 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 543,750 | 523,360 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 518,572 | 611,437 |
| 土地 | 2,503,421 | 2,503,421 |
| リース資産（純額） | 99,337 | 69,456 |
| 建設仮勘定 | 58,401 | 7,878 |
| その他（純額） | 20,776 | 20,008 |
| 有形固定資産合計 | 3,744,260 | 3,735,562 |
| 無形固定資産 | 45,333 | 42,787 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1,543,823 | 1,821,134 |
| 退職給付に係る資産 | 7,095 | 25,149 |
| その他 | 129,264 | 153,179 |
| 貸倒引当金 | 47,922 | 51,593 |
| 投資その他の資産合計 | 1,632,260 | 1,947,870 |
| 固定資産合計 | 5,421,853 | 5,726,220 |
| 資産合計 | 11,006,201 | 12,061,609 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 1,350,747 | ² 1,316,924 |
| 電子記録債務 | 787,462 | 879,912 |
| 短期借入金 | 1,331,806 | 1,648,280 |
| リース債務 | 53,468 | 52,150 |
| 未払金 | 173,597 | 158,367 |
| 未払費用 | 95,095 | 106,168 |
| 未払法人税等 | 28,071 | 6,307 |
| 未払消費税等 | 26,121 | 12,625 |
| 前受金 | 83,271 | 477,524 |
| 賞与引当金 | 135,308 | 42,692 |
| 役員賞与引当金 | 12,000 | 9,000 |
| その他 | 39,831 | 97,795 |
| 流動負債合計 | 4,116,782 | 4,807,748 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 812,862 | 887,435 |
| リース債務 | 73,914 | 36,381 |
| 繰延税金負債 | 261,881 | 347,446 |
| 役員退職慰労引当金 | 75,684 | 74,709 |
| 退職給付に係る負債 | 1,143,437 | 1,185,038 |
| その他 | 24,067 | 21,814 |
| 固定負債合計 | 2,391,847 | 2,552,826 |
| 負債合計 | 6,508,629 | 7,360,574 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,710,000 | 1,710,000 |
| 資本剰余金 | 329,347 | 329,347 |
| 利益剰余金 | 1,655,253 | 1,653,195 |
| 自己株式 | 81,196 | 81,229 |
| 株主資本合計 | 3,613,404 | 3,611,313 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 537,919 | 719,345 |
| その他の包括利益累計額合計 | 537,919 | 719,345 |
| 非支配株主持分 | 346,247 | 370,376 |
| 純資産合計 | 4,497,571 | 4,701,034 |
| 負債純資産合計 | 11,006,201 | 12,061,609 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

| | (単位：千円) | |
|------------------|--|--|
| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日) |
| 売上高 | 9,256,782 | 9,064,092 |
| 売上原価 | 7,329,611 | 7,084,704 |
| 売上総利益 | 1,927,170 | 1,979,388 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,782,703 | 1,864,028 |
| 営業利益 | 144,467 | 115,360 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 488 | 532 |
| 受取配当金 | 19,530 | 20,473 |
| 助成金収入 | 870 | 130 |
| 協賛金収入 | 3,469 | 3,289 |
| 受取補償金 | - | 3,778 |
| その他 | 13,287 | 12,098 |
| 営業外収益合計 | 37,645 | 40,302 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 11,833 | 9,568 |
| その他 | 6,468 | 6,809 |
| 営業外費用合計 | 18,302 | 16,378 |
| 経常利益 | 163,810 | 139,284 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 7,254 | 2,574 |
| 特別利益合計 | 7,254 | 2,574 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 1,043 | 576 |
| 投資有価証券売却損 | 3,350 | - |
| 特別損失合計 | 4,393 | 576 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 166,671 | 141,282 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 55,276 | 33,234 |
| 法人税等調整額 | 10,012 | 53,727 |
| 法人税等合計 | 65,288 | 86,961 |
| 四半期純利益 | 101,382 | 54,320 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 11,390 | 22,815 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 89,991 | 31,505 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 101,382 | 54,320 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 226,154 | 185,355 |
| その他の包括利益合計 | 226,154 | 185,355 |
| 四半期包括利益 | 327,536 | 239,676 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 303,698 | 212,931 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 23,838 | 26,744 |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日) |
|-----------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形割引高 | 37,643千円 | 16,831千円 |
| 受取手形裏書譲渡高 | 34,176 | 51,764 |

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形 | -千円 | 50,277千円 |
| 支払手形 | - | 11,544 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 169,671千円 | 190,722千円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|--------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成28年5月24日 取締役会 | 普通株式 | 33,565 | 10 | 平成28年3月31日 | 平成28年6月13日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|--------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成29年5月24日 取締役会 | 普通株式 | 33,563 | 10 | 平成29年3月31日 | 平成29年6月12日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | | 調整額 (注)1 | 四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|-------------|-----------------------------------|
| | 高圧機器 事業 | 鉄構機器 事業 | 施設機器 事業 | 運送事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 5,796,352 | 355,925 | 1,064,096 | 2,040,407 | 9,256,782 | - | 9,256,782 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 8,358 | - | - | 495,623 | 503,982 | 503,982 | - |
| 計 | 5,804,711 | 355,925 | 1,064,096 | 2,536,031 | 9,760,764 | 503,982 | 9,256,782 |
| セグメント利益 | 387,620 | 41,184 | 28,229 | 32,966 | 490,001 | 345,533 | 144,467 |

(注) 1 セグメント利益の調整額 345,533千円には、セグメント間取引消去3,295千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 348,828千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない、経営管理部、総務部等管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント名称の変更)

前連結会計年度において、鉄構輸送機事業における搬送機器事業を譲渡したことに伴い、報告セグメントの名称を、「鉄構輸送機事業」から「鉄構機器事業」へ名称変更しております。なお、当該変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年 4月 1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | | 調整額 (注)1 | 四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|-------------|-----------------------------------|
| | 高圧機器 事業 | 鉄構機器 事業 | 施設機器 事業 | 運送事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 5,422,190 | 378,385 | 1,268,537 | 1,994,980 | 9,064,092 | - | 9,064,092 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 12,508 | - | - | 489,521 | 502,029 | 502,029 | - |
| 計 | 5,434,698 | 378,385 | 1,268,537 | 2,484,501 | 9,566,122 | 502,029 | 9,064,092 |
| セグメント利益 | 259,843 | 62,993 | 72,471 | 49,604 | 444,912 | 329,552 | 115,360 |

(注) 1 セグメント利益の調整額 329,552千円には、セグメント間取引消去606千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 330,158千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない、経営管理部、総務部等管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日) |
|-----------------------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 26円57銭 | 9円30銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円) | 89,991 | 31,505 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円) | 89,991 | 31,505 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 3,387 | 3,387 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【その他】

重要な訴訟事件等

当社は、平成29年12月26日付にて、有限会社アスカ工機から不法行為の使用者責任による損害賠償請求(72百万円)の提起を受けておりますが、現在、当該請求には根拠がないことから、その内容について争う予定はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月9日

中国工業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トー マ ツ

| | | | | | | |
|--------------------|-------|---|---|---|---|---|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 中 | 原 | 晃 | 生 | 印 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 下 | 平 | 雅 | 和 | 印 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている中国工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、中国工業株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。